

# 知られざる

## 飛鳥の情景

### — 講評 —

飛鳥資料館としては初めての写真コンテストでしたが、皆様のご応募により、心配していましたが応募点数も総計 160 点ほどになり、第 1 回目の写真コンテストとしてはまずまずの出来だったのではと思います。各地から多数のご応募ありがとうございました。飛鳥資料館としては今後も写真コンテストを続けておこない、優秀作品等を収めた写真集などの刊行ができればと思っております。

今回応募された方々の撮影機材をみると、デジタルカメラでの応募が圧倒的に多く、機種もコンパクトデジタルカメラから高級 1 眼レフまでと様々でした。全般的に気になったのは、プリントがインクジェットプリンタでの出力が多いのですが、出力の際、画像処理を施し過ぎる物が多く見受けられました。彩度を上げたり、特定の色を目立たせようと思う気持ちはわからなくはないですが、画像処理がすぎると写真が不自然で作品の価値が逆に落ちてしまいます。また、時代の趨勢でしょうか、モノクロームの作品が数点しかなかったのが印象に残りました。

今回の写真展は「知られざる飛鳥の情景」というコンセプトのもと、見慣れた飛鳥の違った顔を期待していましたが、撮影対象が結構偏っていたように思えます。よく知られた飛鳥の景色や遺跡を題材にされている作品では、被写体が見やすい場所を選択するためか、似通った構図になる作品が見受けられました。周囲の観光客の視線が気になる場所ですが、思い切って見上げたり、近接したりするなど、視点を変えてみることで、見慣れた景色の違った一面を垣間見ることができるようになります。

発掘調査の現地説明会風景など、飛鳥らしいものもありましたが、画面の中に入っているものが入り込みすぎて、主題がうまく伝わらないものがありました。シャッターを切る際に、余分なものが邪魔していないか、一瞬、思い巡らしていただくことをお勧めします。

飛鳥の写真は、多くの写真家が様々な視点から撮影しています。なかなか難しいことではありますが、それらの模倣ではなくオリジナルな視点を見いだせば、面白い作品が生まれてくるのではないのでしょうか。2 回目以降のコンテストでは「新たな視点」に期待したいと思っております。

(— 知られざる飛鳥の情景 — 審査委員会)